

# これからの学校と地域 第2号



## 烏山中学校区地域連携研修会が開催されました！

### 1 学校と地域の連携の第一歩

学校と地域がパートナーとして連携するために、最初に何をすべきかといえは、それは間違いなく話し合いの場をもつことであると言えます。

前号でお伝えした、これからの学校と地域の形であるコミュニティ・スクールにしても、地域学校協働本部を中心とした地域学校協働活動による「学校を核とした地域づくり」にしても、そこに関わる人が目的やビジョンを共有することなしに成果を上げることはできないからです。

今回開催された烏山中学校区地域連携研修会には、烏山中学校区学校運営協議会（仮）委員の皆様と烏山中学校の先生方が参加されました。

研修のメインは「熟議」です。熟議という話し合いをおして、地域と学校に共通の目的やビジョンを構築し、それに向けて行動に移していくための最初の段階と言えるでしょう。

### 2 研修会の内容

研修会のメインタイトルは「烏山地区の子どもたちを考えよう」です。また、那須烏山市は小中一貫教育を進めていることから、サブタイトルを「15歳までにどんな子どもに育ってほしい？」としました。

まず、熟議についての説明を聞いていただいたあと、アイスブレイクとしてグループごとに自己紹介をしていただきました。

所属やお名前を伝えたとに「15歳、あの頃、私は若かった」と題して、御自身の15歳頃のエピソードを言える範囲でお話いただきました。



このような話題は、始めるとなかなか止まらなくなる不思議です。

アイスブレイクに続いて、「今の15歳、どう見えますか？」という問いに、それぞれの立場からの考えを述べ合っていました。グループごとに話を聞いてみると、ここにも委員の方、学校の先生方それぞれの思いがありました。

次のメインの活動の前半は、「15歳までに、どんな子どもに育ってほしい？」について考えていただきました。

付箋紙に考えを書いていただきましたが、「あいさつのできる子」や「正しく行動できる子」など

学校・地域共通の考え、さらに「他人を頼ることができる子」

「職業的に自立できる子」などそれぞれの立場特有の考えなど、様々な意見が出されました。

メインの活動の後

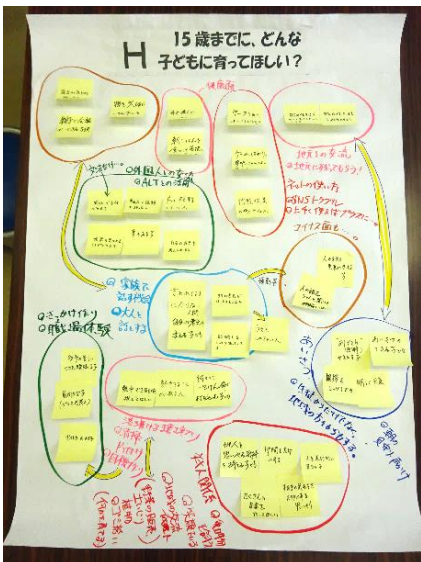


半は「地域と学校が連携・協働してできることは？」というテーマについて考えていただきました。これは、先ほどの付箋紙をカテゴライズしながら分類し、サポートの手段について考えていただくものです。それぞれのグループで考えたサポーター案が模造紙に書き込まれていきました。

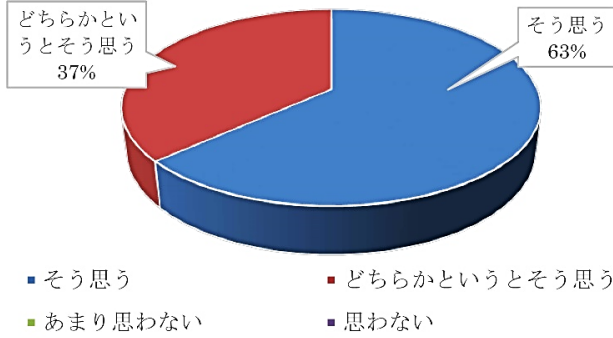


学校と地域の方が知恵を出し合い、意見を出し合い、熟議を進めていくことで、個別に出された意見がまとめられたり、洗練されたりする様子が見られ、改めて熟議の有効性や重要性を感じさせられました。

最後に、ほかのグループのまとめを時間を区切りながら順に見ていただき、締めくくりとしました。60分間という限られた時間でしたが、参加された地域の方と先生方が積極的に取り組んでくださったおかげで、連携・協働のはじめの一歩として十分価値のある時間になりました。

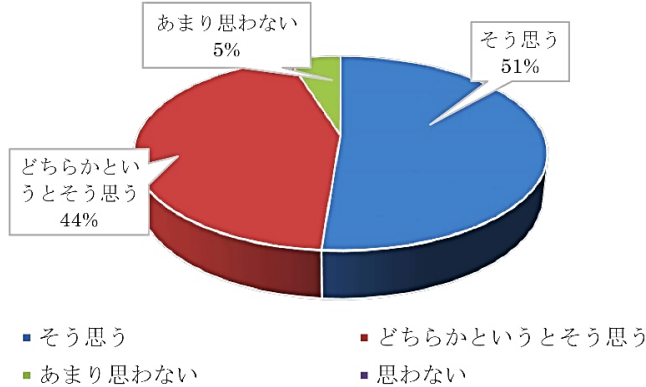


(1) 学校と地域の連携を図る上で、熟議は有効である。



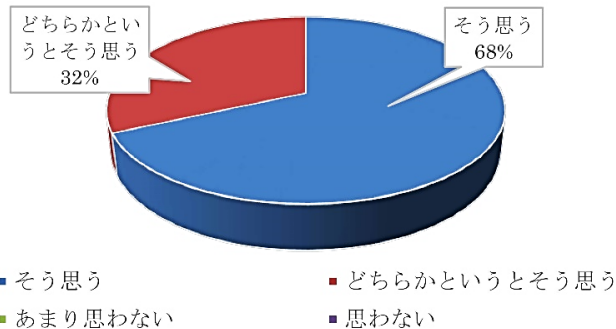
そう思う	26人
どちらかというと思う	15人
あまり思わない	0人
思わない	0人

(2) 学校と地域双方の思いを出した話し合いができた。



そう思う	21人
どちらかというと思う	18人
あまり思わない	2人
思わない	0人

(3) 学校と地域の研修会を、今後も実施したほうがよい。



そう思う	28人
どちらかというと思う	13人
あまり思わない	0人
思わない	0人

【自由記述】一部抜粋

- 是非、生徒の声を聴いて…実現させていきたいと思います。どんな学校にしたいのか、どんな地域がいいのかと、まず生徒の声を聞いて！！
- 学校と地域が連携したい、するべきと想っていても、現実には壁があるなあと感じました。今日、参加していない人（保護者や生徒も）も一緒に考える機会があるといいなあと感じます。
- 先生方、地域の方、誰もが一人一人「良い児童生徒」をつくるために、多くの考えをもっていることが分かった。
- 研修のみに終わってしまうのではなく、実際に地域の人々、子どもたち、学校が一体となって活動していくような場へとステップアップしていくことが求められるのだと感じました。
- 地域の方の貴重な意見をお聞きすることができた。（地域の方がやりたい企画をもっているが、学校側から要請がないと動きづらい）
- コロナ禍の今だからこそできる地域とのかかわりというものも考えていけるとよいのだろうと思う。地域、学校が相互に考えていけるような機会があるとよいのではないかな。
- 子どもたちも、地域の方の顔をよく知らないのではないのでしょうか。お互いに知らなければ、あいさつにしてもコミュニケーションにしてもうまくできないと思います。まずは「お互いを知る」ということを進めていければと思います（先生方も地域の人をよく知らないと思います）。

